



碧南ロータリークラブ週報

第2999回例会 令和3年12月8日(水)

- 会長 新美 雅浩
- 幹事 栗津 康之
- 会場監督(SAA) 岡本 耕也

2021-2022 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内
TEL<0566>41-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 例会場 碧南商工会議所ホール
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
FAX<0566>48-1100



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

- 会報委員 石川鋼勇・鈴木 洋・藤関孝典・小林 尚

●本日のお弁当

大正館

●本日のお客様

西酒造(株) 相談役 工藤隆司様 (オンライン参加)

会 長 挨 拶

改めまして、皆さん、こんにちは。まずは、会員の山田純嗣様が12月4日(土)の夜にお亡くなりになりました。本日、ご葬儀ということでございます。昨日の弔問会には、多数の皆様にご参列をいただきました。山田様は去る10月になりますけれども、明石公園で行いましたロータリー奉仕デーにご自宅



新美雅浩会長

から歩いて元気にご参加されておられました。また、11月7日の地区大会にもご参加されておられました。亡くなる直前まで現役メンバーとして、ロータリーの活動に積極的に関わってこられた訳でございます。また、理事会の承認を得ることによって出席免除という制度があるんですけれども、その免除の承認を敢えて受けられずに皆出席をされておられました。ロータリーに対して、大変高い出席の意識をお持ちになられた方でございます。ご自身の人生の最期までその意を貫かれたということで、深く敬意を表したいと思っております。そんな山田様のご冥福を心よりお祈り申し上げたいと思っております。

さて、早いもので先週の年次総会で次年度の長田体制が決まりました。商工会議所で行う2021年の例会は、本日が最終になります。残りは、今週末にホテルグランドティアラ安城で行われる年忘れ家族会をかねました3000回になりますクラブとしての記念例会のみになっております。現在、コロナ感染が収まっているような状況でございますけれども、国や県のルールに従って感染対策を取りながら、クラブの1つの締めであります記念例会を皆さんと共に楽しくお祝いしたいというふうに存じます。親睦活動委員会の杉浦委員長をはじめとする

委員会のメンバーの皆さんには、色々なご負担をお掛け致しますけれども、よろしくお願いしたいと存じます。

先週も渋沢栄一さんの話を取り上げさせていただきましたけれども、もう 1 点ご紹介したいと存じます。渋沢栄一さんの 91 年の人生の中で、幾度となく逆境というものを経験しておられまして、逆境に陥った時にまず何をすべきなのかということの後世に広く伝えておられます。逆境に陥ると、誰しものが焦ったり、慌てふためいたりすることがあるということでございます。そんな時に渋沢栄一さんが後世に伝えているのが、「世の中には、自分の力ではどうすることもできない逆境が立ちはだかることが必ずある。まずは、その時に冷静になってそれを見極めることが肝要である。」というふうに言われております。逆境に陥ると、誰しものが何とかそれを乗り越えなければいけないというふうに誤解してしまって、変な悪あがきをすることによって、無駄な苦勞を増やしてしまうこともよくあるというふうに感じております。来る時を待ちながら、今自分ができることは何なのかということをしつかりと冷静に考える。言葉で言うのは簡単なことなんですけれども、立ち止まって考えて何もしないということも 1 つの考え方なのかなあというふうに感じました。私自身もよく焦ってしまうことがありますので、しっかりと肝に銘じて行動してまいりたいというふうに感じております。

以上、お伝えしまして、本日の会長挨拶とさせていただきます。

本日もよろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 第 6 回理事会報告につきましては、幹事報告書の通りでございます。
- ・ ローターレート変更のお知らせということで、RI 日本事務局より 12 月のレートのお知らせが届いております。現行 1 ドル 114 円から 114 円（11 月と同じ）になります。
- ・ 12 月 11 日（土）の 17 時より年忘れ家族会・3000 回記念例会がホテルグランドティアラ安城で開催されます。ご参加される皆様は、お時間通りの集合をお願い致します。
- ・ 12 月 15 日（水）は 12 月 11 日（土）の振り替え休会になります。
- ・ 12 月 22 日（水）は定款第 7 条第 1 節（d）による休会になります。
- ・ 12 月 29 日（水）は定款第 7 条第 1 節（d）（1）による休会になります。
- ・ 1 月 5 日（水）は定款第 7 条第 1 節（d）による休会になります。
- ・ 年明けの最初の例会は 1 月 12 日（水）の新年例会になりますので、よろしくお願い致します。



粟津康之幹事

委員会報告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 64 名 (内出席免除者 14 名の内出席者 11 名) 出席者 55 名	
出席対象者 55/61 名	出席率 90.16%
欠席者 9 名 (病欠者 1 名)	

<ニコボックス>

- 木村 徳雄君 遅くなりましたが、伊藤ガバナー補佐ゴルフコンペ、無事に出来ました。皆様ありがとうございました。
- 伊藤 正幸君 昨日、今年度第50回という節目の回数を重ね、辰野R I理事のもと東京メルパークで開催されましたロータリー研究会に参加しました。前夜祭としてホテルオークラ平安の間でR I会長歓迎晩餐会が300名余の参加者のもと開催され、コロナ禍束の間の自粛緩和を受けて久しぶりの盛大なパーティーを楽しませていただきました。
- 岡本 耕也君 先週のゴルフ部会お肉例会で、鋼逸君の繰り上げではありますが、優勝させていただきました。
- 牧野 勝俊君 アイシンティルマーレ、V3開幕戦から2連勝しました。皆様のご支援のおかげです。今後とも応援の程お願いいたします。

卓 話

「私とラグビーと友人」

西酒造(株) 相談役 工藤隆司様 (オンライン)

岡島君：今日はよろしくお願ひします。

工藤様：よろしくお願ひします。

岡島君：最初にお聞きたいのですが、ラグビーはいつぐらいに始められましたか？

工藤様：高校に入ってからです。

岡島君：その時の環境として、周りではラグビーをやられている方は多かったですか？

工藤様：兄がやっていたので、その影響になります。

岡島君：高校のラグビー部は強かったですか？

工藤様：いえいえ、進学校だったもんですから。大体ラグビーって3年生の夏の合宿が終わったぐらいに皆さんラグビー部を辞めてしまうというような状態で、2年生と1年



工藤隆司様



生で花園予選は戦います。3年生はたまにいるぐらいだったんですけども、私自身は最後までやりました。

岡島君：最後までやられたというのは、花園を目指してという気持ちが強かったということですか？

工藤様：花園に行ける状態ではなかったんですけども、3回戦までは進みまして、最後までやり抜きました。

岡島君：因みにポジションはどちらになりますか？

工藤様：12番（インサイドセンター）です。

岡島君：スクラムを組んだりするフォワードとは違って、結構走る方のバックスだった訳ですね。

工藤様：今の体型から見ると不安なんですけれども、昔はもう少しスマートでした。

岡島君：すみません。先入観で僕が勝手にロックとかプロップとかでスクラムをガツンと組んでいるのが工藤さんだと思ってたもんですから、昔はちょっと違ったということだったんですね。

工藤様：はい。

岡島君：国立大学の名門の京都大学に入学されているにもかかわらず、ラグビーがどうしてもやりたいということで、早稲田大学に入り直されたということを知ったんですけども、僕の素人考えですと、例えば、京都大学だったらアメフトが強くて人気じゃないですか。そういうので変わる、もしくは、そこでラグビーを楽しむということにはならなかったんですか？

工藤様：ご存知かもしれませんが、当時の京都大学のアメフトは、今みたいに強くはなかったんですね。ラグビーも強い訳ではありません。たまたまグラウンドを通った時にもう1回やりたいという気持ちになってしまったんですね。

岡島君：そこから早稲田大学に入学されて、その先に名門のラグビー部じゃないですか。僕から見ると信じられないのですが、ラグビー部に入っていたか？

工藤様：2年間京都大学に行きましたから、ブランクがある訳ですね。5月の正式入部までが大変でしたね。落とされるんじゃないかと思うぐらい大変でした。

岡島君：俗に言う「振り落とし」というやつですよ？

工藤様：そうです。そうです。

岡島君：僕の中学時代の同級生が非常にラグビーの才能があったので、地元の高校から早稲田大学に推薦で入って、ラグビー部に入ったけれども、その振り落としに残念ながら引っ掛かってしまって、正式な形でラグビーを続けられなかったというのがあるんですけども、相当過酷な振り落としなんですか？

工藤様：今で言うとナンセンスと思われるかもしれませんが、うさぎ跳びでグラウンドを何周もやったり、鉄棒で懸垂をやったり、100mダッシュを20本やったり、非常にへとへとになるぐらいやりました。当時は練習中や試合中に水を飲んではいけないということで、水を飲まずにずっとやっていたから、脱水症状になるぐらいの状態でした。

岡島君：4月に入部した人数が5月の正式入部に至るまでにどれくらい減るんですか？

工藤様：正確な数字は憶えてませんが、4月に入部して、5月の正式入部になるまでに私と親しくしていた人がいたんですけれども、彼らは落ちましたね。

岡島君：正式入部された後も非常に厳しい練習が待っている訳ですよね？

工藤様：はい。当時、ラグビーの推薦で入れる枠は2人しかなかったんですね。それ以外は一般入試で入ってくる訳ですね。早稲田大学に入りたいという人がいると、傾向と対策みたいな進学指導が夏にあるんですけれども、私はそういうのを受けてなかったもんですから、一番下のクラスから始まりまして、とにかく走れという状態がずっとでした。私は家が鎌倉だったもんですから、鎌倉まで帰る電車に乗ると完全に寝てしまうんですね。ですから、終点の横須賀までしょっちゅう行っていました。練習は厳しかったですね。

岡島君：大学時代はその後、1年生が終わって、2年生とか3年生になっていくと、やっぱりその中で段々と実力をつけて、レギュラーとかそういったところにまでいく訳ですよね？

工藤様：はい。

岡島君：そういうのはどういう形でいられましたか？

工藤様：内マッチというのがありまして、私はFから始まりまして、FからAまで上がっていく訳ですね。そういう中で、言い方としてはおかしいんですけども、自分の対面の人、私がFであればEの人を壊せばいい訳です。イングランド協会が出しているラグビーの本を参考にして、イングランドの戦術を取り入れた動き方を使っていました。トレーニング方法なんかも取り入れていました。

岡島君：部としてはラグビーの基本的な練習だったんですか？

工藤様：そうですね。ですから、先日亡くなった日比野監督や木本監督にイングランドのラグビーについての話をよくしました。

岡島君：日比野さんが監督をやられている時に一緒にやっていたことが凄い話という感じがしますけれども、僕の日比野さんのイメージはラグビー解説をやられている存在でしたので。

工藤様：そういう意味では、私自身が色々な人と知り合えたと思ってますね。

岡島君：錚々たる方々と一緒にプレーをされておられたというのが大学時代のラグビーですけども、対抗戦として有名な早明戦に向けて盛り上がる場所があったんですか？

工藤様：今でこそ早明戦は凄いですけれども、私らの時は早慶戦の方が盛り上がりました。

岡島君：そうですか。僕らの時は、野球は早慶戦、ラグビーは早明戦というような形で、その後、慶応も非常に強くなって行って、早・明・慶で三つ巴みたいところはありましたけれども。当時の早稲田大学のラグビーというのは、一言で言うとどういう感じのスタイルだったんですか？

工藤様：今でもそうですけれども「展開ラグビー」ですね。ボールを持ったら横に広がっていくという。

岡島君：そのスタイルは伝統的に受け継がれている訳ですよね？

工藤様：そうですね。ラグビーをやっている人はご存知だと思いますけれども、「カンペイ」というサインがあるんですね。あとは「ショートラインナップ」とかですね。これって早稲田が作った戦術なんです。ボールをもらったら、前に一步進んでパスをしていくという。相手の隙を突いて、そこに走っていくというのですね。ですから、ラックという状態になるんですけれども、相手よりも先に起き上がる。起き上がれば、相手が倒れている間、人数的に有利になる。できるだけ立ってプレーするというのが、早稲田のスタイルですね。

岡島君：そうなんですね。ありがとうございます。基本的にラグビーを本格的にやっていたのは大学までということで、社会人でやろうという感じはなかったんですか？

工藤様：大学院はスウェーデンの学校に行きましたから。スウェーデンはラグビーがないところですから。帰ってきてから商社リーグでやったり、日本航空でラグビー部を立ち上げて、東京のリーグに出たりしました。

岡島君：立ち上げてってというのが、ラグビーに対する思いの強さを感じますね。高校・大学というのが一番コアなラグビー体験だったと思うんですけれども、社会人ラグビーを通じてのご友人はいかがですか？

工藤様：日本もさることながら、特にイギリスとフランスに出張に行った時に「15人制のラグビーをやっていた。」という、仕事がスムーズに行くことが沢山あるんですね。イギリスのパブリックスクールなんかもそうですね。15人制のラグビー、フェンシング、ボクシング、ボートをやっている人は、エスタブリッシュメントの人が多いですから、そういう部分での友達関係がいっぱいできました。

岡島君：日本国内でもラグビーの経験者同士で打ち解けれるものがあるんですけれども、それは日本だけじゃなく世界共通な訳なんですね。

工藤様：そうですね。世界で通じることは、ノーサイドですね。

岡島君：ノーサイドの精神なんですね。ありがとうございます。色々聞きたいことも山のようにあるんですが、お時間との兼ね合いもあるので。現在、工藤さんは西酒造の相談役ということですが、この機会に西酒造の製品について触れていただければと思います。

工藤様：西酒造は幕末の1845年にできた会社なんですけれども、ここ25年ぐらいは循環型農業をやっております。焼酎を作ります。焼酎粕を黒豚に食べさせます。黒豚の糞を畑に撒きます。畑に撒くと、ミミズが増えます。ミミズが増えると、モグラが来ます。モグラが来ると、土をかき回してくれます。そうすると、良い土ができて、良い芋ができます。そうすると、美味しい焼酎ができるということです。近年では、清酒やウイスキーも作り始めました。

岡島君：確かにウイスキーもやられてて、どこかの展示会でお見かけしてびっくりした記憶があります。今までの焼酎以外のところもそうですし、環境に配慮した形での今後の焼酎や清酒、ウイスキーの製造に取り組まれているということなんですね。

工藤様：はい。

岡島君：西酒造さんは本当に先進なことをやられているので、凄いなあと思っております。これを楽しみにまたよろしくお願ひ致します。今日はありがとうございました。
工藤様：ありがとうございました。

次回例会案内

令和4年1月19日（水） 会場：碧南商工会議所
職場例会「碧南海浜水族館のお仕事」
碧南海浜水族館 館長 森 徹 氏